

シーニックバイウエイルート審査委員会による審査結果概要（第2次ルート提案）

(1) シーニックバイウエイルート

①宗谷シーニックバイウエイ

視点 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○			○	○	○	○	○	特になし
B	○	○				○	○	○	○	特になし
C	○	○		○		○	○	○	○	①建物・構造物・看板等の規制・誘導のガイドライン設定と指導の強化②17団体間の連携活動の強化③全体の企画・運営・マネジメントの体制と力の強化が不可欠④自然・景観資源に加えて、歴史的文化の利活用
D	○	○				△	△	○	○	活動団体の活動内容、地域住民との関わり、行政との連携が十分なものと明らかにする必要がある
E	○	○	○	○		○	○	○	○	①食の工夫、行政との強い連携・協働の姿が見えづらい②各地域の顔づくり
F	○	○		○					○	

(2) シーニックバイウエイ候補ルート

①南十勝夢街道

視点 委員	1					2	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○				○	○	○	十勝山麓ルートとの関係、海の代表であり全国ブランドを既に有する襟裳岬の取り込みなどについて、積極的に検討
B	○	○				○	○	あくまでも襟裳岬地区とのコラボレーションが前提
C	○	○				×	△	①ルート全体の理念・目標・指針を明確にし、共有していくことが急務②分科会活動を積極的にすすめてほしい③外部からの知恵も借りながらスタートするのも一つの方法では④人材発見と育成が急務
D	○	○				△	○	十勝ルートとの関係の明確化（コンセプトの差別化、アイデンティティの確立）
E	○	○	○			×	×	①全体のコンセンサスがとれていないように感じる②お客様をお迎えする体制が弱い③南十勝の自分たちのまちの魅力に気づいていない④PR不足（PR下手）
F	○	○					○	

②十勝平野・山麓ルート

視点 委員	1					2	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○	○			○	○	○	南十勝ルートの連携、できれば一体化についての前向きな検討と議論を期待
B	○	○			○	○	○	北海道の主要なシーニックバイウェイルートを繋ぐ重要なルートである。通過地点から脱却し、固有のルートとして優位性を発揮してほしい
C	○	○				×	○	①ルート全体での目標・行動指針等の共有化が不足。体制の強化。再編も視野にいれて②地域への共有の意識が少ないのでは。活動団体の単なる集合では、ルート指定への道は遠い③人材の発掘と育成が緊急・不可欠
D	○	○				△	△	南十勝との関係の明確化（コンセプトの差別化、アイデンティティの確立）
E	○	○	○		○	○	○	特になし
F	○	○			○		○	

③萌える天北オロロンルート

視点 委員	1					2	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○	○		○		○	○	特になし
B	○	○	○	○	○	○	○	特になし
C	○	○				×	△	①活動組織の補強、活動の理念・目標・計画・方針・内容を再度検討②分科会活動をスタートしてほしい③他の先行のルートとの情報交流④人材発見と育成⑤地域外からの（正則で正しい目を持った）アドバイザーの起用（初動期）
D	○			○		△	○	地域資源のよりいっそうの吟味、活動団体そのものの活動内容、地域住民との関わり、計画への主導性等の明確化
E	○	○		○	○	○	△	天北オロロンルートの人たちの顔がよく見えない。それぞれの熟度がたりない
F	○	○		○	○		○	

シーニックバイウエイルート審査委員会 意見

■シーニックバイウエイルート

◇宗谷シーニックバイウェイ

活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みを意欲的に進め、最北のシーニックバイウェイとしての魅力を向上させることに期待したい。また、ルート全体の企画・運営・マネジメントの体制強化が必用である。

ホスピタリティ向上、人的資源のアピール等、来訪者をお迎えする「おもてなし」について、具体的に活動計画に反映されたい。

今後、道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントは、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」など挙げられる。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくことが望ましい。

特にルート内における景観、自然、歴史、文化、レクリエーション資源などの地域資源の保全・改善のための活動を総合的に実施し、質の高い旅行空間の形成を目指しルートを運営するにあたり、以下の点に留意しつつ進められたい。

- ・地域特性の活用：北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保
- ・景観への取り組み：景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出
- ・自然に与えられた景観の活用に加え、まちなかの建物・看板等の規制や指導などの検討
- ・既存観光地からの脱却を目指し、歴史文化資源の活用、食文化、レクリエーション資源など幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施
- ・持続性の確保：参加する各主体（国、道、市町村、活動団体、住民）による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用
- ・ホスピタリティ向上：研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成
- ・全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携
- ・開かれた運営体制：継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆シーニックバイウェイ候補ルート全体に対する意見

今後、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等の取り組みや、活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みが重要である。

また、参加者がシーニックバイウェイの趣旨を十分に理解し、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、共有化を幅広く図る努力が必要である。

◇南十勝夢街道

十勝平野・山麓ルートとの連携や差別化、襟裳岬地区とのコラボレーション等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

農村文化と都市との関係、地域で開催されるイベントとの連携活動等を、どのように展開していくのか検討されたい。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

◇十勝平野・山麓ルート

南十勝夢街道との連携や差別化、また、他のシーニックバイウェイルートとの繋がりや差別化を考えたルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

大規模農地と山脈がおりなす北海道らしい景観資源を活用し、滞在地としての優位性をアピールする工夫が必要である。

◇萌える天北オロロンルート

札幌や旭川から宗谷地域に向かう海岸ルートとしての位置づけ、他ルートとの連携・差別化について検討されたい。

海岸地域としての地域資源の一層の吟味・価値意識の共有等に取り組まれたい。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。